

# The legend of OBASAN 1 「伝説のおばさん」 のオススメ



橋本 明子

息子を救いたい一心で  
骨髓バンク設立に向けて奔走。

——常任理事に就任していただき  
ますか？

その後もがん患者さんを支える  
さまざまな活動を展開。

一方、骨髓バンクの国会承認を機に私は「家に居る母」になったものの、社会活動を何もかも止めたわけではなかった。息子が白血病になった頃はインターネットなど想像もできない時代で、病氣や治療法の解説など探しようもなかった。つまり情報が無かったわけで、それがとても不安だった。そこで、白血病などの血液の病気に關して各地で学習会を開催、情報誌の発行なども手掛けるボランティア組織を立ち上げることになった。それは今も継続中のNPO法人になっている。

もう一つ、平成9年に「血液がん患者さん電話相談」に参加したのだが、いつの間にかその責任者となり、4400件の相談を受けて、それが現在の「がん電話情報センター」へとつながることになった。

息子を喪って(同時に日本骨髓バンク設立)から17年という年月、日本骨髓バンクは試行錯誤しながらもドナー登録数30万

3月半ばのこと、日本骨髓バンク(骨髓移植推進財団)事務局からの電話だった。ええ、いいですよ。すんなりと応諾して電話を切ったから、ゆっくりと不思議な気分が湧いてきた。あれから、長いながい歳月が流れたのだ。

長男(当時10歳)が白血病になったことから、骨髓バンク設立の運動を開始しなければならなかったのは、今からもう23年も前の、昭和61年のことだった。骨髓移植をしな

人を悠々と超えた世

界に冠たる組織へと

成長して来て、私の

方は血液がんの領域

で患者さん対応の支

援活動が「がん電話

情報センター」など

の結実を示しつつあ

る。日本骨髓バンク

は、ここで私のよう

うな「患者の声を聴

き続けている立場」も参加させ

ることで、患者救済の機構として

新たなステップアップ、の意

欲を持ち始めたのだと思う。

●  
おばさんの知恵と勇気で、  
次代をより良い方向へ。

ただ、私も骨髓バンク設立要求運動のころからすれば、すっかりおばさんになった。体力・気力も減退の一途、もう引退かなあ、と度々感じるのだが、これからのくらしい理事として役に立てるかと思わなくてはいけな

しかし近年、このように退役を考える時に思い出す事がある。出張で新幹線に乗ったとき、手にした雑誌に載っていた「おばさん仮説」という話。それ

## おばさん仮説を これからごいっしょに。

れば息子は長く生きられない、何としても救いたい、という一心で走り出した。前例は何もない。当時は「骨髓バンク」という言葉さえ存在しなかった。結局、私は「骨髓バンク設立要求の全国運動」の創始者となって、2年間、講演で日本中を奔走し、厚生省との団体折衝を8回、議員請願署名は77万人分集めた。そうして平成1年には国会予算委員会で総理大臣から「承認」の返答が出た。そのとき私は国会の傍聴席にいた。テレビカメラが私を捉えていた。

によると、人という生物が現代人のように「文化を持ち得た理由」についてはいくつか仮説があるが、その一つが「おばさん仮説」だ。生物の中で、閉経後に長生きをしている(つまりおばあさん)という存在がある(の)のは人間だけだ。新たな子育ては無いからこそ、後進をより良い方向に導く提言ができる存在。

私はまだ50代だからおばあさんというのは少し先のように思うので、勝手に「おばさん仮説」として元気を出しているのだが、皆さんも一緒にどうでしょう？

その瞬間、ああ、これで家に帰れる、と思った。骨髓バンク設立運動のために、肝心の息子には妹と2人いつも家で留守番をさせていた。私はもう出かない母になって、子ども達のそばに居たかった。

しかしその後、国会での設立承認から事実上その組織が整うまで丸2年もかかった。それをお役所仕事と言うのだろうか。骨髓バンクが動き出したという知らせが届いたとき息子の病状は既に悪化しており、入院して無菌室の中だった。それからわずか2カ月後に私の手から去って行ってしまった。平成4年2月のことだった。

NPO法人血液情報広場・つばざ理事長、  
がん電話情報センターCTIS相談主任、  
日本骨髓バンク(骨髓移植推進財団)常任理事

### 橋本 明子

1986年、長男の白血病罹患を機に、骨髓バンク設立要求運動を開始。同時に、骨髓移植に関する医学学習会を全国で展開。  
1989年、国会で「骨髓バンク(後の骨髓移植推進財団)」承認。  
1997年、骨髓バンク患者電話相談の相談リーダーに。  
2008年、がん電話情報センターの相談主任に就任。  
2009年、日本骨髓バンク(骨髓移植推進財団)常任理事に就任。



CTIS  
Cancer Telephone Information Service

ここにいます  
「がん電話情報センター」  
あなたの知るを助けます

ancer

(全国一律の電話料金でご利用いただけます。PHS、一部のIP電話からはご利用いただけません。)  
おーここのじょうほう  
0570-055224  
受付時間：平日 12:00~17:00  
(土日・祝祭日・年末年始・夏期休業を除く)